

報徳博物館

友の会 だより
No.72

尊徳記念館の案内板尊徳の誕生地栢山を歩く



尊徳記念館の案内板

上の写真は、小田急線栢山駅前の「二宮尊徳遺跡案内板」です。高さ横とも2mほどの大きなものですが、上に酒匂川下に仙了川が左(北)から右(南)へ流れています。左上の人物は、尊徳記念館の生家前に建っている「尊徳回村の像」の絵です。

生家をはじめ、油菜栽培地跡・捨苗栽培地跡・松苗を植えた坂口堤・道仙医師の村田医院・総本家跡・弟三郎左衛門家・叔父万兵衛家・菩提寺善栄寺・曾比の報徳堀などの遺跡が示されています。

しかし、これらは一般によく知られている所、今回は少し違った視点から、目についたものをカメラに収めてみました。

◇小田急線富水駅前の二宮尊徳遺跡案内板



表紙の栢山駅前のものとそっくりですが、方向が逆になっております。右下の→の向きも逆になっておりますが、尊徳の生家や尊徳記念館までの距離1km・所要時間約15分はどちらも同じです。でも、実際は富水駅からの方が若干近いです。

◇油菜栽培地跡の碑（写真下）

尊徳記念館の西方約300mの所を北から南へ流れる仙了川(川幅約14~5m)の左岸上に建っています。

この辺りで、少年金次郎が自分の灯油を得ようと、一握りの菜種を蒔き、翌年7~8升の菜種を収穫し「積小為大」の理を悟ったという逸話の所。

最近護岸工事もすっかり終って、すぐ脇には「あぶらなばし」という立派な橋も架かりました。

写真の左側の碑は昭和2年に桜井村報徳少年団が建てたもの。標柱と説明板は小田原市教育委員会が建てたもの。後方(西方)に雪を戴いた富士山、石碑の脇に小さく遠く盛り上がっているのが金時山、左方に大きく見えるのは箱根外輪山の明神岳で、左方看板の向こう辺りが三竹・矢佐芝山です。

◇忘れられた標識二つ



左上、小田急線富水駅の横で少々痛んで衰れっぽいですが、ずっと以前から立っている標識。

右上は、尊徳記念館の裏通りに、ひっそり立っている「二宮先生誕生地通路」と刻まれた石の柱。高さは約2mで、約20cm角、横には「大正4年11月建之」と刻まれています。もう90年も前からここに立っているわけですが、昔はこの道が栢山村を南北に貫く往還だったのです。岡田良一郎も御木本幸吉も留岡幸助もここを曲がったわけです。

◇広町まなび通りの標柱



尊徳記念館や尊徳の生家から県道を北の方へ4~500m行った交差点を左折し、中学校へ向かう道路に立っている道路標識。

ポールの先端に「買薪読書の少年金次郎」の絵。そして、よくぞ名付けた「まなび通り」の名札。



◇尊徳の墓に大菩提塔建立



善栄寺の尊徳の墓に、150回忌の辰菩提塔が建ちました。毎年の報徳学園の修学旅行団と一般参拝者の浄財に、住職の栄宏道師が上乘せして建てたのだそうです。

高さは約3.2mの18cm角

正面は○ 一円融合 誠明院功誉報徳中正居士

背面に梵字 観音妙智力能救世間苦 平成17年10月20日 推譲金にて建立

調査・取材ノートから

◇『留岡幸助』日記から

著名な社会事業家留岡幸助は大変な報徳信奉者で、明治期に尊徳ゆかりの地や人物を訪ねて聞き取り取材をした『留岡幸助日記』は、後の尊徳研究者らに多くの資料を提供してくれています。

同書の第二巻412ページの三、「二宮翁事跡探訪」(明治38年1月)という項に「二見初右衛門氏談」という記事があります。

この二見初右衛門は尊徳高弟の箱根湯本の福住正兄の三男で、酒匂村(小田原市)の二見家に入った人です。留岡がその二见到面取材した記録です。(1)～(16)の中の(9)を原文のまま次に記します(ルビ・カッコ内は筆者)。

今市ニ先生(尊徳)ノ新築セシ家アリ。弥太郎(尊徳の嗣子)五・六才ニシテ徒物(いたずら者)也。廊下の突当タリト云ヘテ壁ヲ塗ル斗リニナリ、此所ヲ弥太郎通りタイト云フ。先生、大工ニ命ジテ取りハズシテ通セト命ゼリ。通り抜ケタル後、先生弥太郎ニ諭シテ再ビ通ル勿レ、今ヨリふさぐと云ひ玉ヘリ。此レハ、弥太郎ノ守ヲナセル酒匂村ノ今現ニ生セルジー(爺)酒井儀左衛門也。正兄翁ノ友達也。

とありますが、いくつかの疑問点があります。

- ①弥太郎5・6歳の時には、二宮一家が住んでいたのは桜町で今市ではない。
- ②儀左衛門は、没年の明治37年95歳から逆算して、弥太郎5・6歳の時には彼は15・6歳のはず。
- ③明治38年1月の聞き取りだが、彼は前年9月に死去している。調べる必要がありそうです。それに、筆者の独断ですが、尊徳が子供の我がままを聞いてこんなことをするだろうか疑問です。

左面 積小為大 小を積んで大となす 一日に、一字ずつ習えば一年に 365字となるぞこの小僧(筆者注、尊徳少年時の作と伝えられる)

右面 分度推譲 分度とは天分の度合いということ、収入に見合った一定の基準を設け、入るを計って出るを制す。推譲とは、分度によって生じた余剰を、世の中のため・人のために譲る。

と、報徳の基本理念が書いてあります。

◇酒井儀左衛門(補遺)

「友の会だより」第68号で、酒匂村(小田原)の「二宮先生之門人酒井儀左衛門の墓」について記しました。その中で、「彼の名前が小田原報徳社関係資料の明治29年から見られなくなる」と記しました。それもその筈、彼は同29年から静岡県各地で講話巡回していたのです。その功に対する感謝状がありました。以下原文のまま記します。



功勞感謝證

夙ニ御初年ヨリ志ヲ報徳御趣法ニ注キ、躬自ヲ其勤儉貯蓄ノ法ニ報ヒ御実ノ家ヲ再興ナセシ后二宮大先生ニ態々御謝礼トシテ野州ニ趣キ報徳ノ道ヲ尊キ事ヲ謝シ遂ニ御門人ト成深クニ法道外ノ堆譲ノ道ニ誠心ヲ尽シタル動徳広大ナリ、其明德上聞ニ達シ各宮様ヨリ御褒賞ヲ賜ル事数回ニ及御功勞感謝ニ堪ヘス明治29年ヨリ本年ニ至ル迄3ケ年間遠讓社ニ御視察トシテ御高年ニシテ寒風厲ヲ削ルカ如ク山川ノ難所道ヲ厭ナク御巡回アラセラル御講話ヲ廳聞シタル功德ノ言語ニ尽シカタク茲ニ御功勞ノ旨趣ヲ感謝ス

明治32年2月2日 静岡県磐田市郡吉田村寺谷 青島伊平治 印

酒井儀左衛門翁殿

とあります。

吉田村寺谷は現磐田市寺谷のこと、酒井がどんな経緯でこの地方に赴いたのか、彼の地での動向など、今後の調査を必要としますが、彼について何か資料とか情報をお持ちでしたら、報徳博物館斎藤までご一報頂ければ幸いです。

トピックス

◇尊徳の松の木が切られた？

昨年の末ごろ、酒匂川の新しい架橋工事に伴って、堤防の松が何本か伐採されました。尊徳が植えた松ということで、伐採の是非をめくっていくつかの意見が新聞紙上で伝えられました。筆者は、昨年12月に現地へ行って



調べましたが、一番太かったと思われる切株(下の写真)を測ると、長径が約70cm、短径は約62cm、年輪は数え難い箇所もありましたが、多目に見ても85年ぐらいでした。

尊徳が植えたのは、200年以上も以前のことで、



しかも坂口堤に200本ということ。ところがここは、坂口堤から2.5kmも下流に当たる。どう考えても違う松でしょうね。

報徳博物館だより

◇留学生からのメッセージ

昨年4月12日に来日した于丹さん(写真左)が3月14日に帰国しました。

〈于丹さんのご挨拶〉

春爛漫のみぎり、ご清栄のこととお喜び申し上げます。中国の北京大学から参りました于丹です。おかげさまで、一年間の留学生生活を無事に終わりました。3月14日をもちまして帰国させていただきます。滞在中は皆様にいろいろお世話になりました。歌舞伎や能を見せて下さったり、祭にたくさん参加させて頂いたり、茶道も習わせて下さったりして、日本の伝統文化について勉強になりました。皆様は優しく面倒を見て下さって非常に感謝しております。

この一年間の留学生生活は、私にとってかけがえない経験です。今は皆様に、なんとお礼を申し上げたらよいのか、どうお報いしたらよいのかまったく困っています。本当にありがとうございます。今後も末永いお付き合いのほどお願い申し上げます。中国においでの際には、ぜひお立ち寄りください。またお会いすることを楽しみにしております。

〈左 漢卿さんの来日挨拶〉(写真右側)

左 漢卿と申します。日本は、今回で4回目ですが、今回こそ桜の花とすれ違わないように長く滞在することが出来て、嬉しくてたまりません。



これから一年間、皆様に親しんでいられるので、報徳思想は勿論、茶道・お能・華道など日本の伝統文化から、今現在の実生活までいろいろと見習いたいです。よろしくお願いたします。

※左さんは、北京郵電大学語言学院の日本語科助教授で、北京にご主人と4歳の男の子を残しての来日です。去る2月19日の第11回目の中国を知ろう会では、ママさん先生の体験を生かして「中国における子供の教育の現状」について話していただきました。

◇そのほかの、中国を知ろう会の記録

- 1回 食生活から見た中国文化 周冬梅さん
- 2回 家の変化から見る中国人の生活 崔嵐さん
- 3回 食生活から見た中国文化 周冬梅さん
- 4回 愛にあふれる中国人の節 崔嵐さん
- 5回 心弦を響かせるメロディーで安らぐ 周冬梅さん
- 6回 多彩な中華衣服 崔嵐さん
- 7回 来日感想 于丹さん
- 8回 中国の庭園 劉偉さん
- 9回 半年の留学生生活をふりかえって 于丹さん
- 10回 中国の民間伝説 于丹さん

発行 財団法人報徳福運社

報徳博物館友の会

〒250-0013 小田原市南町1-5-72
電話0465(23)1151・振替00250-6-24450